

いい人ばかりの 保土ヶ谷区は、 何年も変わらず このまままで いてほしい。

食レポをはじめバラエティー番組に
なくてはならない存在の石塚英彦さん。
フリーのプロレスラーとして
次世代のマット界を
引っばっていくKAI選手。
市立桜丘高校出身のお二人を母校に迎え、
高校時代の忘れられない話から
保土ヶ谷への思いまで、
校長の中島久男先生が
いろいろと聞き出しました。



KAI
(プロレスラー)

中島 久男
(桜丘高校校長)

石塚 英彦
(タレント)

高校時代は

とにかく坂道の記憶。

夏場は着替えの

ワイシャツ持参(石塚)

中島 保土ヶ谷区は2017年で区

制90周年を迎えますが、この桜丘高

校も同じく創立90周年なんですよ。お

二人の高校時代の思い出はなんですか。

石塚 横浜でいちばん坂が多い区は保土

ヶ谷つてよくいわれています。この高

校も坂の上にあるので、どこから登校す

るにも坂を上らなきゃならない。夏場は

来ただけでワイシャツがびしょびしょで、

いつも着替えを持ってきていました。

KAI そうです、まず着替えてから

授業、という感じでしたね。高校時代

は毎日上って下って、が当たり前でし

たから。

石塚 保土ヶ谷出身の人はみんなふく

らはぎが太いつて聞いて、ああ確かに

KAI 高低差があるから、トレーニングに適していますね。自宅から保土

谷公園まで行って走っていた思い出が

あります。普段から階段や坂道を上つ

プロレスラーになるために 入った柔道部(KAI)

中島 お二人とも柔道部のご出身ですね。

石塚 僕は中学時代、水泳部だった

んです。で、近所の床屋さんにも柔道

柔道をやっていた兄と間違えられて『柔

道部はどう?』と訊かれるんで、否定

するのも面倒くさいから高校で柔道部

に入っちゃったんです(笑)。

KAI 僕はプロレスがすごく好き

で、自分でもやりたいと思うようになっ

たんです。そしたら体育の先生(柔道

部の顧問)に、『じゃあ柔道部入っちゃ

えよ』と言われて、「そうか」と即決

しました。高校2年のときでした。入

部初日、『プロレスラーになるために柔

ていますね。

石塚 すごいなあ。そのときに言った

言葉を実行してるんですからね。

中島 その頃、柔道部の雰囲気はど

うでしたか。

KAI 明るく楽しく、でも激しく

ちゃんとやるという感じでしたね。『ヤ

ワラちゃん』の影響で女子部員もいま

しました。だから芸能界でやっていけ

るといふ(笑)。OB会には今でも必

ず行つてます。

「ぬるま湯温泉」には それなりの効能が あるんですよ(中島)

中島 通つていらした頃の桜丘高校の

雰囲気はどんな感じだったんですか。

石塚 高校の受験勉強を頑張つて入っ

て、入ると油断しちゃうという。近く

に保土ヶ谷公園やプールもあるから、何

かのんびりしちゃうんですね。自分自

KAI 僕もプロレスにはまつてたん

で、そつちに……。みんな穏やかな生

徒が多かったです。

中島 今でも学校説明会で『穏やか

な校風』と言うんですが、その当時は

『ぬるま湯温泉』とからかわれます

が、『温泉には効能がある』と反論し

てるんです。

石塚・KAI おお、それはいい言

葉です。僕らにもその効能があつたわ

けですね。



高校時代に撮った 8ミリ映画にはみんな 協力してくれた(石塚)

中島 石塚さんは高校時代に自主制作映画を作られたそうですね。

石塚 『ロッキー』に影響されて、白帯の柔道選手がインターハイの決勝まで行くストーリーです。僕が監督兼主演で。撮影にはほんと、皆さん協力してくれたんですよ。

KAI 柔道部以外にもですか。

石塚 カメラ回してくれたのは先生。文化祭で上映するために作ったんですが、予算のない中で、自腹切ったんじゃないかな。あとは、先生方や同級生も出演してくれたし、本物の大会がここ(桜丘高校)で行われたときにも撮影させてもらって。実際には勝ってないけどガッツポーズしてる画を撮ったり。他の市立高校の連中もみんな協力してくれました。ちよつとやんちゃな奴も不良役を一生懸命やってくれました。

KAI 真面目な不良なんですね(笑)。

中島 それがきっかけで俳優を目指されたんですね。

石塚 そうです。でも自信もなかったんで、まずは大学に入ってその演劇サークルで芝居を磨こうと。でも、入った大学には演劇部がなかったんです(笑)。それで休学して劇団ひまわりに入りました。



保土ヶ谷の 意外な名物は ネギとジャガイモ (石塚)

中島 映像つながりですが、ここで保土ヶ谷区が制作した広報用プロモーションビデオを観てください。

—「ほどがやカノン」予告編と第1話を上映

石塚 ミュージックビデオなんですか？

中島 そういう作りですが、出演者はすべて保土ヶ谷区役所の職員です。

KAI 楽器演奏している人たちもですか？

中島 ほぼ未経験の職員も一生懸命やってくれたとのことです。全7話制作予定だと聞いています(※)。

石塚 有名スポットもいくつか出てきますね。保土ヶ谷公園とか水道記念館とか。あ、松原商店街はよくロケで行きますよ。

中島 保土ヶ谷の名所がいくつも出てきましたが、名物といえば何だと思いますか。

石塚 僕が知ってるのはジャガイモの『キタアカリ』。以前番組で保土ヶ谷が原産と聞いて驚いたことがあります。北海道のイメージが強いですから。

中島 キタアカリで作った焼酎もあるそうですね。10月の区民まつりで飲めるとか。あと、西谷ネギも有名ですね。

KAI ああ、西谷のあたりは畑も多いですからね。

※「ほどがやカノン」で検索してみてください。

保土ヶ谷を 「スポーツのまち」とも 呼びたい(KAI)

石塚 ところでKAI君はまた保土ヶ谷に凱旋するんだよね。

KAI はい、そうですね。プロレスのチャリティー興行を10月に保土ヶ谷スポーツセンターで行います。保土ヶ谷出身のレスラーも何人か出るんですよ。この会場は、まるでプロレスのために作られたんじゃないかってくらい、素晴らしいんです。

石塚 あんなに立派なスポーツセンターだとは思わなかった。



KAI 今年は保土ヶ谷区と桜丘高校が90周年、保土ヶ谷スポーツセンターが30周年、そして僕がプロレスデビューして10年です。あと、スポーツ関係で言うと、保土ヶ谷球場のある保土ヶ谷公園は素晴らしいと思います。

中島 高校野球の夏の大会ではメイン球場の一つですからね。テレビ中継もやりますし。

KAI ラグビー場もサッカー場も、テニスコートもありますもんね。保土ヶ谷は『スポーツのまち』でもあると思います。こっちの面でもっと知名度を高めて、盛り上げていきたいですね。



100年経っても 変わってほしくない 保土ヶ谷

中島 では最後に保土ヶ谷区制100周年に向かって、一言聞かせていただけますか。

石塚 保土ヶ谷って、あんまり変わらないうところが魅力だと思います。隣にはみなとみらいがありますが、どんな顔が変わるじゃないですか。前向きで素晴らしいとは思いますが、保土ヶ谷はそういう変化を高台からニヤニヤしながら見ているのがいいんじゃないかな(笑)。

KAI 保土ヶ谷は横浜の中心部と戸塚区に挟まれていて、今ひとつ抜け出せてない気がするんです。さっき言ったみたいにスポーツのまちであるとか、もっとアピールしていけばいいなと思います。

石塚 保土ヶ谷は東海道五十三次の宿場町ですよ。子どもの頃、お茶漬け海苔に入ってた浮世絵の五十三次カードが保土ヶ谷宿だと、やけに誇らしかつたです。今でも保土ヶ谷駅周辺には宿場町の雰囲気が残ってる気がします。



ますよね。あと、北条政子ゆかりの『政子の井戸』というのも歴史が感じられますね。だから何年経ってもそういうものは残ってほしい。100周年だろうが200周年だろうが。
KAI そういう古き良きものを大事にしてほしいですね。

石塚 保土ヶ谷の良さは人の良さだとも思います。出会ってきたのがいい人ばかりですから。悪い人はいません(笑)。

中島 いい人がたくさんいる区には、いい未来が待ってそうですね。今日はいいお話がたくさん聞きました。どうもありがとうございました。

Profile

石塚 英彦 (タレント)

1962年2月6日生まれ。
保土ヶ谷区出身、横浜市立桜丘高校卒業。高校時代は柔道部所属。お笑いタレント、グルメリポーター、俳優としてさまざまなメディアで活躍中。「まいい〜」で二世を風靡。



KAI (プロレスラー)

1983年5月20日生まれ。
戸塚区出身、横浜市立桜丘高校卒業。高校時代は柔道部所属。メキシコ修行後、2008年に日本デビュー。2016年、WRESTLE-1チャンピオンに。現在は同団体を退団し、フリーランス。

